

あそびのまなび

『砂あそび』



砂あそびは子どもたちがよく行う遊びの1つでもあります。私たち大人も、実は子どもの頃よくしていた遊びでもあります。では、どうして幼児期に『砂あそび』をたくさん経験すると良いのでしょうか。今回のあそびのまなびでは、『砂あそび』を通して、どんな力が育っていくのか紹介したいと思います。

《感覚》

砂あそびは、いろいろな感覚が肌の触覚を通して直接体に入ります。乾いた砂は、サラサラと手のひらをすり抜ける感覚があり、太陽で温まった砂は、表面は熱いのですが、中は冷たく温度が変わります。また、砂の上を歩くためには、体のバランスを取る力が育っている必要があります。

このようないろいろな感覚を感じる砂あそびの中で、握ったりつかんだりなどの手の操作の発達も促すことができます。



《想像力》

「ケーキを作りましょう、葉っぱで飾り付けをしましょう」と砂を食べ物に見立てて遊ぶことがあります。カップや道具を使う中で、砂でいろいろな物を作ることができます。「おいしそうだね、ケーキですか？」など、子どもたちのイメージを膨らませるような声かけをする中で、創造性（イメージする力）を育てることにつながります。イメージする力は、他者の思いを想像するなどにつながります。

《対人社会性》

砂遊びは、「高い山を作ろう・トンネルを作ろう」など、他児と共通の目的を持ちながらイメージを共有して1つの目的達成のために協力しあうなどの活動ができます。このように砂あそびの中で、他者の思いを受け入れたり、自分の思いを他者に伝えたりするなどのやりとりを、遊びの中で経験することができます。また、道具の貸し借りなどを通して、やりとりの言葉を育てることにもつながります。



「人生に必要なことは全て幼稚園の砂場で学んだ」

アメリカの哲学者ロバート・フルガム